

【帯広】春耕の季節を前に、帯広市の農業機械メーカー・東洋農機で農機具の出荷がピークを迎えている。敷地には陽光に輝く新品の機械がずらりと並び、クレーンで次々とトラックに積み込まれてゆく。

出荷しているのは、冬の間硬くなった土を砕いたりして作物に適した土壌を整備する機械。トラクターに連結して使う。同社の主力商品はジャガイモ収穫機や薬剤散布機だが、この時期の出荷はほとんどが土壌整備用の機械といひ、道内を中心に約500台を送り出す。

3月下旬に始まった出荷

いざ春耕 農機出陣

は、ほぼ例年並みのスケジュールで進んでいるが、雪が多かった今年は積雪で収納場所に運び込めない農家もあるという。出荷のピークは4月中旬まで続く。

ピークを迎えた土壌整備用農機具の出荷作業
(諸橋弘平撮影)

